

桃浦かき生産者合同会社



代表社員
大山 勝幸氏

◆企業の概要

企業名：桃浦かき生産者合同会社
代表者：代表社員 大山 勝幸
住所：石巻市桃浦字上ノ山66番地34
設立年：平成24年
業種：かき養殖・加工・販売
資本金：8.9百万円
従業員数：40名

◆事業の概要

大震災で壊滅的な被害を受けた漁村桃浦の漁業者を中心に「水産業復興特区」制度を活用し設立した合同会社で、かきの養殖と加工・販売を行う。

震災復興への課題解決のため新たに開発した「かき超高压処理装置」を導入し、かき剥きの効率化と安全安心なブランドかきの創出を図り、漁村の再生・復興を目指す。



本社



生かき

日本初の漁業権を持ち生産・加工・販売の6次産業化を行う 新しいビジネスモデルとして合同会社を設立、「かき超高压 処理装置」の開発・導入により被災漁村の再生・復興を目指す



かき水揚げ風景



ハーフシェル



横型の「かき超高压処理装置」によるかき剥きの風景

◆受賞の理由

石巻市の桃浦地区は、大震災以前は人口約150人のかき養殖を主産業とする漁村集落であったが、大震災の津波により集落のほぼすべての住居・船・養殖設備を失い、住人もほとんど転出し3名まで減少した。以前から高齢化が進んでいたこともあり、集落は消滅の危機に瀕したが、復興庁が「水産業復興特区」を制度化したことを受け、桃浦地区の漁業者が集落の再建を模索。従来の個人の漁業者中心での復興は課題も多く見込まれたことから、この制度を活用し日本で初めて、会社が漁業権を持ち、生産・加工・販売を行う6次産業化の新しいビジネススタイルとして支援企業も参加する合同会社を設立した。

事業の当面解決すべき最大の課題が、かきの剥き子の確保であった。原因はかきの剥き子の高齢化と震災による人口の流出であったため、人手の急速な回復は見込まれないことから剥き子に頼らない生産体制の確立が必要となり、かき剥きの機械化による効率化を検討。神戸製鋼との共同研究の結果、日本初の横型の「かき超高压処理装置」を開発・導入。新しく開発した装置は①非加熱のため生鮮品（生食用）が可能②超高压による開殻・脱殻が可能③人手によらないため身に傷がつかず殻の混入がない④超高压による殺菌効果により日持ちが期待できる（大学等で実証試験中）等の特性がある。

超高压処理で脱殻した「脱殻殻付かき」や「ハーフシェル」は、簡単に殻付かきを楽しめる商品として高い注目を受けており、当社は販売にも取り組み飲食店チェーンや量販店へ拡大を目指しているが、超高压による殺菌効果の実証により、さらに安全安心なかきとして「桃浦かき」のブランド力の向上が期待されている。

当社は、かき養殖の6次産業化による高付加価値化を図り収益性の向上を目指すとともに、安定した雇用と収入を提供することにより定住者の増加を図ることで、桃浦地区の漁業の継続と村落の再生を目指している。地区の再生・復興の牽引役として大変期待される企業である。